

強い影響をもつ気象および気候に関する国際会議 (ICHWC2004) 出席報告*

古川 武彦**

1. はじめに

韓国ソウルで2004年3月に開催された標記会議に、日本気象学会理事長代理として出席した。今回の出席は、日中韓の気象学会の申し合わせ¹⁾に沿って、韓国気象学会から当学会にも招待がなされたもので、中国気象学会長も招かれていた。ICHWCはInternational Conference on High-Impact Weather and Climateの略称で、社会の諸活動に強い影響を及ぼす気象および気候を対象としている。ICHWCは関連記念行事を含めて3月22日から26日まで延べ5日間にわたる大イベントであった。会議の具体的な研究テーマは、気象と気候についての理解と予測およびそれらの社会・経済的な影響が対象である。以下に、会議の概要や日中韓の非公式会議などについて述べる。

2. ICHWC および記念行事

ICHWC2004の開催は、韓国気象庁(Korea Meteorological Administration: KMA)の近代的な気象サービスの開始100周年および韓国気象学会(Korean Meteorological Association: KMS)設立40周年を記念したもので、主催はKMA, KMS, 世界気象機関(WMO)の三者である。組織委員会などは韓国側で構



写真 レセプションにおける国外参加者の記念スナップ。

成されているが、学術委員会には国外の研究者も入っている。ICHWCの参加者は約500人、発表論文176、口頭発表130、ポスター46で、このうち国外からの参加者は約130人におよび全体の4分の1を占めている。日本からも大学や気象庁などから10名程度の参加者があった。一方、後半の100周年記念式典の部には高建大統領代行以下、韓国気象庁関係者を中心に約1000人(国外から数10名)が参列した。ICHWCおよび記念式典を通じての全体の印象は、韓国が気象の研究および国家気象サービスの両分野で、先進国を目指していることの国内外に対するアピールの強さで、その熱意のほどは異例ともいえる後述の大統領代行のメッセージに象徴される。

会議は、Seoul市東部のビジネス地域に位置する近代的な威容と設備を有する国際会議場COEXで開催され、すべての会議や展示などが同一ビル内で行われたので、参加者にとっては非常に都合が良かった。ICHWCの日程は、第1表に示すように22日の開会式に引き続く24日までの3日間で、毎日午前中が全体会議(plenary)に当てられ、午後は6つの分科会での講

* Report on The International Conference on High-Impact Weather and Climate 2004.

** Takehiko FURUKAWA, (財)日本気象協会.

¹⁾ 2002年9月に国際交流担当の住 明正理事が訪中した際に、今後日中韓の気象学会の国際的な交流を深めるべく、それぞれ自国の学会開催に合わせて他国の代表者を招待し、科学講演などを行うことが合意された。これに基づき2003年5月つくばで開かれた春季大会に、韓国から会長以下2名が来日し講演が行われたが、中国からは例のSARSの影響で出席が実現しなかった(「天気」2003年8月号参照)。

第1表 ICHWC 2004の全体会議 (plenary) および分科会などの日程.

Date	Time	Room 401	Room 310	Room 311A	Room 311B	Room 320A	Room 320B	Room 321
22	Plenary 1 (09:30~ 12:00)	Opening Ceremony & PL 1 Plenary Session 1						
	Sessin 1 (13:30~ 15:10)		Exhibition & Poster	Socio- Economic 1 Impact & Mitigation	KoFlux 1 Overview & Flux measurement- I	Climate 1 Climate Variability- I	Climate 2 Observation and Monitoring of the Climate System	Weather 1 Remote Sensing Studies
	Sessin 2 (15:30~ 17:10)		Exhibition & Poster	JCS Joint Session With CL3 & SE2	KoFlux 2 Flux measurement- II	Climate 1 Climate Variability- II	EXB Meteorological Instrument- I	Weather 2 Understanding of high- impact weather systems- I
23	Plenary 2 (09:00~ 12:00)	PL 2 Plenary Session 2						
	Sessin 3 (13:30~ 15:10)		Exhibition & Poster	Socio- Economic 3 Drought- I	KoFlux 3 Scaling fluxes	Climate 4 Climate Modeing and Predictability- I	Climate 5 Climate Change and its Uncertainties- I	Weather 3 Numerical prediction for high-impact weather systems- I
	Sessin 4 (15:30~ 17:10)		Exhibition & Poster	Socio- Economic 3 Drought- II	KoFlux 4 Scaling fluxes & Data information system	Climate 4 Climate Modeing and Predictability- II	Climate 5 Climate Change and its Uncertainties- II	Weather 4 Typhoon studies
24	Plenary 3 (09:00~ 12:00)	PL 3 Plenary Session 3						
	Sessin 5 (13:30~ 15:10)		Exhibition & Poster	Socio- Economic 4 Agricultural, Applied Meteorology	KoFlux 5 Lessons from other Fluxnet	Climate 4 Climate Modeing and Predictability- III	EXB Meteorological Instrument- II	Weather 2 Understanding of high-impact weather system- II
	Sessin 6 (15:30~ 17:10)		Exhibition & Poster	Socio- Economic 5 Hydro- meteorology	KoFlux 6 Lectures, Plans & Closing	Climate 6 Asia Monsoon and its Varability	THORPEX Meeting (closed)	Weather 3 Numerical prediction for high-impact weather system- II

演, それらの合間を縫ってのポスターセッション, 民間事業者による気象観測測器等の展示が行われた。また ICHWC に引き続いて25日, 26日の両日は KMA100周年の記念行事が催された。

全体会議の講演題目は, 第2表に示すように ICHWC の趣旨に沿った13テーマで, 各分野の主要研究者による基調的な招待講演が行われた。第1日目のプリンストン大学の真鍋淑郎氏を皮切りに国外の講演者が3分の2を占めている。第1表の全体日程と分科会名, 第2表の基調講演のタイトルおよび講演者などを一瞥すると, ここでは詳しい紹介を省略するが, 気象および気候の問題とその社会に対するインパクトなどについての世界的な課題や研究動向の一端が窺える。研究発表などのアブストラクトは Proceedings of ICHWC2004に取りまとめられている。いずれホームページ (<http://ichwc.2004.metri.re.kr>) 上でも公開するとのことであった。アブストラクトなど興味のある方は当方に連絡されたい。

なお, 小生は, 開会式の祝辞で, 今回の招待などに

関する謝辞, 韓国と日本が一衣帯水の間柄にあり交易なども盛んであることから, 両国における気象の研究および気象サービス分野の交流と連携が必要であること, さらに, 日中韓の置かれた気象学上の地理的關係から3国を中心とした国際学術交流の促進が懸案であることなどを述べた。また, 分科会の中で, 日本気象学会の活動などについて紹介を行った。

24, 25両日は KMA の記念式典であった。韓国における気象観測の歴史は15世紀まで遡ることができ, 当時, すでに雨量計が実用化されていたようだ。2004年の今年が KMA における気象観測システムおよびサービス近代化100周年に当たることから, ICHWC に合わせて記念式典が行われた。大統領 (代行) が出席したため, 事前にパスポートのコピーの提出および当日の確認など, 式典はまさに厳重な警戒体制の中, 分刻みのスケジュールで挙行された。一行政官庁 (および学会) の記念式典に, 首相ではなく国家元首が出席し, かつ直々に勲章等の授与を行い, 引き続いて気象関係者に対する慰労と士気を鼓舞するべく長時間の演

第2表 全体会議のタイトルおよび講演者.

Simulated Long-term Change in Water Availability due to Global Warming	真鍋他 (プリンストン大学, 米国)
Socio-economic Impacts and Response to Climate Change	HoeSung Lee (Keimyung Univ., 韓国)
THORPEX : A Global Atmospheric Research Program	Alan Thorpe (Univ. of Reading, 英国)
Time Scales and Processes In Climate Change : Some New Direction	Susan Solomon (NOAA, 米国)
Global Weather Services in 2025-A FiveYear Update	Richard Anthes (UCAR, 米国)
Heavy Rainfall over Korea : Observation and Predictability	Dong-Kyu Lee (Seoul National Univ., 韓国)
The Social Aspects of High-Impact Weather and Climate : A Case Scenario of Superstorm'93	Michael H. Glantz (NCAR, 米国)
Future Perspectives for Climate Modeling	Jeong-Woo Kim (Yonsei Univ., 韓国)
Socio-economic Impacts and Implications of Weather and Climate : Some Strategic Considerations	Rodolfo A. de Guzman (WMO)
Characteristics of East-Asian Monsoon in the Midlatitudes	Jong-Ghap Jhun 他 (Seoul National Univ., 韓国)
The Kellervills Tornado during VORTEX : Damage Survey and Doppler Radar Analyses	Roger Wakimoto (UCLA, 米国)
Post-Changma Heavy Rainfalls : Recent Trend and Their Characteristics	Tae-Young Lee (Yonsei Univ., 韓国)
Mesoscale Prediction with the WRF Model	Ying-Hwa Kuo 他 (NCAR, 米国)

説が行われた。

特に、印象に残った点は、大統領が2008年に打ち上げが予定されている衛星計画を積極的に支持すること、韓国が衛星国となれば気象の世界で先進国となること、今や気象は韓国の経済成長を駆動する力であって、1人20000米ドルのGNPをもたらす中心的役割を果たすべきであること、この目標は科学と技術の革新によってのみ達成されること、政府は基礎科学の推進の一環として大気科学の発展に大きな関心を持っており、こうした基礎科学の基盤なしには産業と経済の発展は脆弱な画餅に過ぎないことなどを、強調したことであり、参列者に大きな感銘を与えた。なお、前韓国気象学会長のJhun氏(ソウル大教授)がthe Order of National Service Merit for Scientist(科学者に与えられる国家最高の勲功とのこと)を授与された。

3. 日中韓の非公式会談

大会初日に開催された盛大で鄭重なレセプション

(大宴会場での結婚披露宴並の着席スタイル)の後、日中韓の研究交流を促進するための話し合いが行われた。出席者は、韓国気象学会長(Hyo-Sang Chung, 韓国気象研究所長)、中国気象学会長(Rongsheng Wu, 南京大学教授)、小生である。先ず、今後も引き続き学会代表者の招待を継続することを確認した。次いで、3国間の交流促進のため、互に関心のあるトピックスを対象にした国際会議を3年おきに輪番で開催する方向で、今後調整を進めることとなった。なお、この会議の開催形態は、当該国の学会時に並行して国際セッションを持ち、英語を用いるものである。本件のオーソライズは、本年10月に中国の昆明で開催される中国気象学会時に、3国代表者会議で行うこととなった。また、韓国から第1回会議は2005年日本での開催がふさわしいとの表明があった。写真はレセプションにおける国外参加者などの記念スナップである。